

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770102626
法人名	有限会社 そよ風
事業所名	グループホームそよの里
所在地	香川県高松市多肥上町504番2 (電話)087-864-8270

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年7月20日	評価決定日	平成21年8月31日

## 【情報提供票より】(21年6月17日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年10月1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	15人 常勤 10人, 非常勤 5人, 常勤換算 13.9人

### (2)建物概要

建物構造	木造造り 一部2階建ての1階部分
------	---------------------

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	12,000円+実費	
敷金	有( )円		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要(6月17日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	5名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	63歳	最高	95歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	たむら内科	おさか脳神経外科	高松平和病院
	高田整形外科医院	生協へいわ歯科診療所	

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造の建物で、食堂・リビングの天井は高く天井扇風機を整備しており、毎朝窓の開閉だけでなく、その扇風機による換気を行ってから冷房するなど環境への配慮をしている。年間研修計画を作成し、講師を招いたり事例検討などを行っている。事例検討は勤務シフトにより全員が検討できるようにし、検討後の結果についても話し合う機会を確保するなど職員の育成に取り組んでいる。利用者と職員が馴染みの関係であることの重要性を認識し、職員交代時などは今までの馴染みの職員が新人とともにかわり、徐々に馴染めるように対応している。また、「介護マニュアル」を作成しており、新人はそれを活用し利用者へのダメージを少なくするなど、利用者が日々をその人らしく安心して暮らせる支援に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の改善点である地域の中で住んでいる視点をとり入れた理念については、職員全員が意見を出し合って検討し見直している。また、地域とのつきあいについて、地域のボランティアによる行事がある時は、地域の人へもチラシを配布し参加を呼びかけるなど、地域の人が気軽に来てくれるよう取り組んでいる。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 職員は評価がサービスの質向上、事業所のレベルアップにつながると考えている。自己評価は項目ごとに職員が分担して評価し、良い点、改善点を話し合うなど評価に積極的に取り組んでいる。
重点項目②	<b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b> 運営推進会議では、事業所内の行事や作業状況、ボランティアの来訪状況などの報告をし、メンバーからの意見を改善に向けつなげている。また、評価結果確認後は報告し、意見・アドバイスを心得てサービスの質向上につなげている。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b> 家族の意見、苦情などを管理者および外部者に相談できることを説明している。また、玄関に意見箱を設置いつでも意見などを表すことができ、意見に対しては職員で話し合ったり、家族の来訪時や家族会で話し合うなど意見を反映している。
重点項目④	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 管理者が民生委員や老人会長に協力依頼し、地域とのつながりの基盤を築いている。地域のボランティアによる行事の際に地域の人に呼びかけたり、地域の「桜祭り」に参加したり、近くの商店に買い物に行ったりしている。管理者は機会があれば地元の活動に参加していきたいと考えており、事業所が地域から孤立することなく、地域の一員となれるよう地元の活動に積極的に参加協力していく取り組みに期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員が意見を出し合って検討し、最終的には代表者が決定している。昨年、住み慣れた地域の中でその人らしく暮らしていけることを支えるサービスとして見直し、事業所独自の理念につくり変えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、談話室、事務室などに理念を掲示しており、毎朝申し送り時に職員全員で理念を唱和し共有している。常に利用者の困ったことや不安などを傾聴し、それについてユニット会議でその人にあった対応など、利用者を尊重し日々の実践の中で理念を具体化できるよう意識し話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が民生委員や老人会長に協力依頼し、地域とのつながりの基盤を築いている。地域のボランティアの方による大正琴演奏時は、地域の人へもチラシを配布し参加を呼びかけている。また、地域の「桜祭り」に参加したり、近くの商店に買い物に行っている。	○	管理者は、機会があればこれから地元の活動に参加していきたいと考えている。事業所自体が地域から孤立することなく、地域の一員となれるよう地元の活動に積極的に参加協力していく取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、評価がサービスの質向上、事業所のレベルアップにつながると考えており、自己評価は項目ごとに職員が分担し評価している。評価結果については、言葉・行動の対応など良い点、改善点など話し合い、職員が各自の目標を設定し意識づけるなど代表者、管理者が評価に積極的に取り組む姿勢がうかがえる。	○	管理者は、自己評価の全項目に職員が取り組んだり、改善項目についても全職員で検討していきたいと考えている。職員が評価の一連の過程にかかわることを通して、事業所の質向上・確保につながるのを今後期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所内の行事や作業状況、ボランティア来訪などの報告をし、会議での意見を改善に向けつなげている。また、評価結果確認後は報告し改善へのアドバイスを得ている。運営推進会議に委員が積極的に参加できるよう会議終了時に次回開催日を周知し、なお開催前には案内している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会に参加したり、不明な点がある時は問い合わせなどは行っているが、市担当者に事業所の考え方、運営や現場の実情などを積極的に伝えるまでには至っていない。	○	市担当者と運営推進会議以外にも、事業所の考え方、運営や現場の実情を積極的に伝える機会をつくり実態を共有するとともに、直面している課題解決に向け協議し、市とともにサービスの質向上に取り組んでいく関係づくりを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回は日常の生活ぶり、リハビリ状況などを便りとして送っている。また、身体的変化、伝えておきたいことがある時、金銭的なことで了承や同意を得たい時など本人・家族の状況に応じて、来所時や電話、ファックスなどで個別に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満、苦情などを管理者および外部者に相談できることを説明している。また、玄関に意見箱を設置しいつでも意見などを表せる配慮をしており、家族会でも話し合うなど前向きに取り組む運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は利用者や職員が馴染みの関係にあることの重要性を認識している。職員交代時などは、今までの馴染みの職員が新人とともにかわり、徐々に馴染めるように対応している。また、「介護マニュアル」を作成しており、新人はそれを活用するなど利用者へのダメージを少なくするよう配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での年間研修・勉強会計画を作成しており、講師を招いたり事例検討など月1回は実施している。事例検討については勤務シフトにより全員が検討できるようにし、検討後の結果についても話し合う機会を確保している。本部や外部の研修にも参加し内容を職員に周知し職員育成につなげている。また、資格取得の支援につなげたいと考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は質確保のためにも、他事業所との交流や連携の必要性を認識しており、グループホーム協議会にも加入し連携をとっている。管理者、職員と交流し研修会や電話などで実践上での意見や情報交換をし、サービスの質向上に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族に見学してもらい、利用者の生活状況や事業所の雰囲気を見て安心して利用できるよう支援している。また、本人・家族とも段階を踏み馴染みの物をそろえる相談など、支援の工夫をし職員との人間関係を築いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	いつも尊敬の心を持ち、生活の中で洗濯や食事作りなどをともにしたり、野菜作りの方法を利用者から教わるなど支えあい、野菜収穫など生活の中でともに喜びあっている。また、利用者の認知症程度には差があるが、不穏の強い時この利用者にはできることは何かを考え安心して過せるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの日常の言葉や行動に注意し、思いや意向などの把握に努めている。把握が困難な時は、家族へ報告時状況を説明し確認したり、家族会などを活用している。また、関係者のミーティングなどで利用者本位の視点で話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメント様式を参考に、事業所独自のアセスメント用紙を作成し、利用者がその人らしく暮らせる課題を見出している。課題については、ユニット会議やミーティングで家族の意向や医療関係者の意見も取り入れ、利用者本位の視点で支援について検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3カ月に1回モニタリングを行い、6カ月でも見直している。状況変化時や本人・家族の要望がある場合も臨機応変に関係者と話し合い見直している。また、変化がない場合も新鮮な目で利用者のストレスなどには常に注意し、対応を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ相談がある時は、十分に話し合い他施設(同一有限会社の他事業所)への紹介を行っている。	○	家族が希望時、職員が可能な範囲で受診支援を行っているが、その時々々の本人、家族の要望に向き合い、利用者・家族が安心して暮らし続けていくために介護保険サービスや自主サービスなど事業所の多機能性を活かし柔軟な対応の検討が望まれる。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からの疾患については従来のかかりつけ医と連携をとり、本人・家族の希望に応じている。急変時には協力医療機関を受診できるよう支援している。受診支援後は検査結果や治療内容などを看護師または管理者が家族に報告し、受診結果を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時、重度化や終末期について家族と話し合い対応方針を説明している。その時管理者が同席し、状況を職員に説明し全員で方針を共有している。家族の来所時に状態変化に応じて話をしている。	○	入所時に対応方針を説明しているが、本人・家族の意向の変化も考えられる。管理者は看取りの介護について、家族と話し合う機会を持ちたいと考えているので、本人、家族、医療・ケア関係者との話し合う機会づくりを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊重し感謝の気持ちで接することを認識し、日々の挨拶やプライバシーを損ねないような言葉かけを心がけている。また、職員同士で注意しあったり事例検討時話し合い、プライバシーの確保の徹底を図っている。秘密保持については重要事項に明記説明し、職員は個人情報や記録類も仕事上のものとして管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や状況を把握したり、その人のペースに配慮しながら、その日の利用者の気持ちを尊重し押しつけや強要をせず、その人に合った過し方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で収穫した野菜を調理したり、利用者の力に合わせ調理準備、片付け、テーブル拭きなど職員と一緒にしている。食器は利用者個人のものを使っているが、食事を美味しくしようと盛り付けたり献立によっては食器を工夫するなどしている。また、食事前には、安全で楽しく食事ができるよう口音訓練や嚥下体操を全員で実施し、職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間の入浴を希望する利用者はなく、その日の行事などにより午前または午後、利用者の体調や希望により入浴している。入浴を拒否する利用者にはタイミングを見て声かけしたり、入浴への不安や羞恥心への心配りに注意し、気持ちよく入浴できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメント表を参考にしたり、生活歴、家族の情報から利用者の特技、趣味などできる力を把握し、利用者の役割りや楽しみになるよう支援している。また、ボランティアの大正琴の演奏の時、琴に合わせて歌うなど暮らしの中でレクリエーションとしての楽しみが増えるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の生活の中で買い物、散歩、外出、ドライブなど利用者の希望にそって戸外に出られるよう支援している。また、外に出かけられない利用者にも、テラスを利用してお茶を飲んだり、花の水やりなど戸外で気持ちよく過ごせるよう工夫をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の尊厳からも鍵をかけることの弊害を認識しており、居室や日中は玄関に鍵をかけていない。玄関は鍵をかけず、小電力型ワイヤレスコール(報知連絡用)を整備し外出が分かるようにしている。また、散歩、菜園作業、テラスの活用などで満足でき不意に出て行くことが防げるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は年2回、昼間に消防署員指導のもと実施し、避難訓練を行っているが、地震、水害時の訓練は行っていない。消防署は近距離にあり連携をはかれる。災害に備え主食は2日～3日分、麦茶は1日～2日分は常に準備している。	○	昼間だけでなく夜間想定や、職員全員が徹底して訓練に参加でき、利用者一人ひとりの状態を踏まえて具体的避難誘導できることが望まれる。また、災害時職員だけの誘導の限界を踏まえ地域のボランティアの協力があるようだが、連絡方法など具体的協力体制を築く取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養士が作成し栄養のバランスを考えている。食事・水分摂取量は毎日観察して記録に残し、1日を通じてカロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足に注意している。食事量の少ない利用者には、一緒に座り無理強いないようにゆっくり勧めたり、水分についてはおやつ、外出、入浴時などに補給できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・リビングの天井は高く天井扇風機を整備しており、窓の開閉だけでなく、毎朝その扇風機による換気を行ってから冷房をするなど環境への配慮をしている。また、2本の柱も丸くテーブルの配置などとマッチし安全・安心感や安らぎを感じる。季節の花や鉢植えなどを置き自宅に近い雰囲気づくりや、利用者の季節の作品を掲示するなど季節感を出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の希望など家族と相談しながら、家族の写真や馴染みの家具、置物を置くなど利用者が居心地よく毎日を過せるよう工夫している。また、備え付けの整理戸棚は広く、本人や家族と相談しながら居室担当者が一緒に整理し工夫している。		